

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「学級づくりへの支援」

1 落ち着きのない学級（今、何をやる時間かを明確に！）

- (1) その時間、今、子どもたちが何をやるかを明確にする
- (2) 授業中の子ども活動を整理する

【インプット場面】～話を聞く、教科書を読む、動画を見る、板書を写す。

【思考場面】～自分で考える、友達と話し合う。

【アウトプット場面】～ノートに書く、音読をする、自分の意見を言う、

授業以外にも、朝の時間(朝の支度、宿題の提出)、休憩時間(授業の片付け・準備、トイレ、水飲み)、休み時間(外遊び、係活動、読書)など、その時間にやることは意外に限られている。教師も子どももそれを意識して行動できると、教室は落ち着いてくる。子どもには、それぞれの場面でやることを板書したり、掲示したりして伝える。

- (3) 「今、何をやる時間？」なのか分かる工夫をする

最初に1時間の授業のスケジュールを提示する。さらに、目・耳・口、手のマークを作り、今は、どの力を使って学ぶときかを示す。活動を明確にすることで、授業の構造がはっきりして、ポイントを絞った指導ができる。

2 周りがつられている学級（2人目が大事！）

学級のみんながその子につられないようにするためには、2人目を出さないようにする。

- (1) 2人目の存在が学級の在り方を左右する

2人目が出なかったときにそのことを認め、ほめる。「よくつられなかったね」「あなたが我慢したおかげでみんなが授業に参加できたよ」、こんな言葉掛けを増やせると、周りがつられなくなる。着席している子どもを当たり前と思わず、「それでいいんだよ、先生はあなたをいつも見ているよ」というメッセージを送り続ける。

- (2) 気になる子を取り巻く4つのタイプ

- ①問題行動をまねする子（模倣犯タイプ）
- ②わざと刺激をする子(天敵タイプ)
- ③影でコントロールする子（影の司令塔）
- ④クラスのトラブルを楽しむ子（ギャラリータイプ）



こうした視点で学級の子どもを見ることで、周りの子の様子を見る目を養うことができる。

3 バラバラな学級（先に走っている快速電車と後から来る各駅停車の電車が待ち合わせるイメージ）

遠足で出掛けた山登りでは、列の先頭と最後が離れると、時折、立ち止まって全員がそろいのを待つ。遠足を思い浮かべながら学校生活を送ることを心掛ける。

生活場面だけでなく、授業でもそろい場面を意識する。静かになってから話し掛ける、板書を写し終えた子は、その文を読み上げさせる、プリントを早く終わった子は、挿絵に色絵を塗ったり、発展問題に挑戦したりするなど、待ち時間にやることを与えておくと、飽きずにそろいのを待っていられる。

集団行動、一斉指導が中心の今の学校では、生活場面でも授業場面でも、みんなをそろえる工夫が不可欠である。※参照「特別支援教育コーディネーターの仕事スキル」 田中博司 著



とれたて直送便



「笑顔で帰す責任」

就学先に悩む保護者とお子さんの学校見学がスタートしました。小学校の丁寧な説明と笑顔で授業をする先生方の姿に、保護者の不安な表情が、晴れやかな表情へ変わっていくのが分かります。学校は、教育相談等で来校する保護者や子どもを笑顔で帰す責任があります。